

令和4年度第2回南城市立百名小学校運営協議会 議事録

1. 日時

令和5年1月29日（日曜日）9時30分～11時30分

2. 場所

南城市立百名小学校図書室

3. 出席者及び欠席者

(1)出席者

大濱会長、高嶺副会長、川畑委員、座波百名副区長（儀武委員代理）、森山委員、玉城委員、仲村委員
（事務局）細田教頭、與座教務主任

(2)欠席者

石嶺委員

4. 協議

令和4年度の教育活動について

(1)目標、計画の設定

(2)目標達成に向けた取り組み

(3)今後の改善方策

5. 議事録

【大濱会長】

南城市教育委員会に本協議会から報告する内容を協議して参ります。

第1回協議会で説明がありました目標や計画などの設定の適切さ、目標達成に向けた取り組みの適切さ、今後の改善方策の適切さなど御意見を頂きたいと思います。しかし、項目分けてしまうと意外と難しかったり、意見しづらかったりするのかなと個人的に思いますので、今日の授業参観と令和4年度の教育活動の報告を踏まえて、何か率直な意見だったり感じたことでもいいのかと思ってますのでよろしく願いいたします。

はじめに、PTA会長として関わっていただいている高嶺副会長から御意見をお願いします。

【高嶺副会長】

授業参観して、印象に残っていることを1つ、5年生の給食のメニューを考えたという所を実際に体育館でスライドを通して発表を見て、メニューを考えたということを理解しました。先ほどの報告で、実際の給食として出された献立表に百名小学校5年生考案メニューとして書かれてあるのが印象的です。子どもたちが自分たちで努力した結果を目で確認できるだけでなく、百名小学校の5年生の取組を目にした方々が影響を受けた所もあるのかなと思います。玉城小学校や船越小学校も良い影響を受けていくのかなと感じました。

【玉城委員】

先ほど高嶺副会長からありましたが、私も献立表見た時に、南城市内の小中学校の家庭に配られ百名小5年生考案メニューと書いてあることで、他の学校にも刺激があるなと思いました。また、子どもたちにとって、目で見ても見える化することによって、やる気、やりがいを感じると思います。報告書を見た時も、いいなと思いました。今日は、南城市教育の日で、発表形式の授業を参観する場に学校運営委員の立場として参観させていただき、子どもたちの学びを見ることができたことに感謝します。

報告資料にもありましたが、地域の方々から学ぶ総合的な学習の時間や多様性を認める生活、学校でも多様性を学ぶ教育が求められてきていると思いますが、こういう点も学校で進めていることはすごいなと感じました。会社を経営している立場として、今後、百名小の子どもたちに、地域の企業の一つとして、授業の中で関わることがあれば協力していきたいです。

【森山委員】

いろいろな授業を参観して、子どもたちがハキハキしていると感じました。各教室で調べ学習をしてきたことをまとめ、4年生も5年生も自ら学習を進める方法が良かったと思います。今後とも、子どもたち元気な姿を見届けていきたいと思います。

【川畑委員】

久しぶりの授業参観で感激しました。子どもたちの積極性、取り組み方が非常に素晴らしい。5年生の給食の食品ロスの問題などの発表は感激しました。さらに、子どもたちが非常に明るい。区長になって2年間、老人クラブを中心にスクールガードの取組を行っているが、子どもたちの朝の挨拶も非常に元気があります。最初の頃は、知らない人ということで挨拶する児童が少なかったが、今では子どもたちから積極的に挨拶してくれます。子どもたちが成長する姿が目に見えるので非常にうれしいです。身長も大きくなるし、声もハキハキしてきてる。また、校長先生をはじめ、学校の先生方の努力も素晴らしい。今日は、感激しています。

【大濱会長】

貴重な感想、御意見でした。私も皆様と同じ意見です。まず、感激、感動したというのが第一印象です。私も、娘たち3人を百名小学校を卒業させて、今保護者として関わることがない状況ですが、姪や甥が5年生、3年生におります。先ほど、授業参観で発表を聞くことができたので良かったと思っています。実家に行った時、学校での出来事や学校を訪問していた人たちの事を話してくれることもあります。今日の授業参観で印象的だったのは、川畑委員、森山委員が話されていたように、5年生の授業です。自主、自立が形成されてきてる風を感じました。また4年生の授業で印象的だったのは、子どもたちが率先して担任の先生と協力しながら、授業参観のおもてなしではないんですけども、お母さん達、お父さん達が来られるので、運営側にしっかり回りながら協力しているところです。低学年の子どもたちも、目がとても生き生きしてるところが、とても印象的でした。そこには、先生達の日々の努力が授業参観に出ていると思います。日々の取組、頑張り、研修等の努力に敬意を表したいと思います。また、その成果がデータや数値に出ていると思います。この中で課題や今後地域の方々との関わりなどについてお話を聞いたら、地域としての取組や、どのように関わっていくかを考えることができます。仲村委員から御意見をお願いします。

【仲村委員】

委員の皆様、ありがとうございます。うれしくなります。先生方や子どもたちが頑張った成果、1時間じっくり参観していただければ、もっといろいろと活動してきたことを見ることができたのかなと思います。でも短い時間の参観でしたが、御意見を聞いてうれしく思っています。

課題はいろいろあります。今日参観いただいたのは生活科や総合的な学習の時間の発表という華やかな部分です。子供たちの出番があり、もちろん大事なところですが、読み書きができ、計算ができることが調べ学習につながったり、自分が思ったことを相手に話したり、対話が成り立ったりします。5年生が玉城の3つの小学校の食品ロスを割合で表すことも算数の計算できなければ円グラフで表すことができない。課題としては、どの子にも学習の保障、学びの力を身につけていくことが必要だと考えています。先生方が放課後、学習指導等行っていますが、学習面の指導だけでなく、家庭生活の安定も必要だと思います。コミュニティ・スクールでは、学校の課題、地域の課題、両者が抱えている課題、家庭が抱えている課題を情報共有しながら、南城市教育委員会や南城市子育て支援課などと連携を図り、できる手立てを考えていきたいと考えています。

話は変わりますが、本校は地域の教育素材や保護者の方々、地域の方々の協力をいただいて学習に取り組むことができています。そのひとつに5年生と仲村渠稲作会が学習してきたことについて、岡山大学の先生が視察に来られる予定があります。

地域の課題として人口が減少していることもありますが、その対応も考えていかななくてはいけません。企業誘致等も難しい現状がありますので、今ある畑の活用、食料生産に結び付けて人が集まるようにするかなど考えていければと思います。子どもたちが地域の良さを理解し、アピールすることができるようになればと考えています。子どものアイデンティティを育んでいく取組をこつこつ続けていきたいと思います。委員の皆様や地域の方々の力が今後とも必要になってきますので、つながりな

がら継続的に取り組んでいきたいと考えています。

【大濱会長】

子どもたちの学習の保障という点で授業参観でも感じたことですが、授業中の学習理解が難しい児童への支援について、地域や保護者との連携もありますか。

【仲村委員】

スクールソーシャルワーカーの方がいまして、各家庭への支援を行っています。担当地域が、百名小、玉城小、船越小、玉城中になっており、兄弟一緒に支援したり、食料の支援などを行っています。とても助かっています。

【大濱会長】

学校から御家庭に入っていくのは難しい部分があります。専門的な方や行政の方との連携が必要なところがあります。また、地域にしかできないこともあります。このようなことをこの場で共有しながら、進めていくことも重要なことかなと思います。人口減少の話もありましたが、今後も地域の重要な課題になってくると思います。地域としてそのような課題を抱えつつ、地域でやっていかななくてはならない部分を、学校と地域が一体となって推進していくことがコミュニティ・スクールの大事な部分につながっていくと思います。今日も3年ぶりに学校公開日がありました。実施できたことに意義があると思います。子どもたちの地域での状況をお話いただけますか。例えば、行事の取組や子どもたちとの関わり方などありますか。

【川畑委員】

垣花区では、毎年11月に生子祝（しょうしいわい）、1年間に生まれた子のお祝いと敬老会を兼ねて実施しています。しかし、コロナの時期で3年間休止になっています。その祝いの場ではま子供会の子どもたちが、学校で習った踊りなどを発表する場でありましたが、コロナ渦で3年間開催されていません。屋外で行うの新春グランドゴルフ大会には子どもたちからお年寄りまで参加して、皆さんのふれあいの場として活用しながら開催しています。去年は夏休みにラジオ体操をしましたが、今年はコロナの影響でできませんでした。女性会、婦人会を中心に行う年末の門松作りには、子供会も参加して公民館で実施をしています。

【大濱会長】

昨年は関わらせていただきましたが、門松、しめ縄作りは続いているのですね。

【仲村委員】

学校でも、実施しています。

【大濱会長】

学校でも実施していますが、垣花区も単独で婦人会が子供会も交えて行っていることは素晴らしいですね。今後、敬老会も開催できるといいですね。森山委員お願いします。

【森山委員】

新原で子どもたちが参加する行事は、敬老会の時に子どもが出し物を2、3点出していましたが、3年間コロナの影響で何もできませんでした。今度、子供会から何かやりたいという申し出があり、キビ倒し、キビ絞り、砂糖作り、炊きあげまで全部やりました。その時は、新原にいる30名、他の区からも子どもたちが集まりました。11月20日に実施しました。この時期は糖度が上がるか心配でしたが、ケーキを作られているビーンズの皆さんにお世話になって実施しました。シンメナービー3杯分作りました。できあがった量はわずかですが、みんな楽しんでやりました。作り方をどうするかという話がありました。絞りから炊き込みまで時間がかかるので、前日参加可能な父兄が集まり、出荷していないサトウキビを農家から譲り受け、刈り取りを行いました。子どもたちも何名か参加しました。絞りは、翌日、子どもたちができるように切り取って、子どもたちがキビを洗って、一人ず

つきびを絞る機械でやりました。楽しかったです。朝9時から3時頃までしました。昼食は区が材料を用意してカレーを作りました。できあがった砂糖を各老人家庭に配布までしました。そのような出来事が心に残りました。

【大濱会長】

座波百名副区長、お願いします。

【座波百名副区長】

百名区の昨年の大きな行事では、子どもたちから壮年、お年寄りまでみんな揃って秋頃、グランドゴルフ大会を有志が計画して、百名の社会福祉センターでしました。百名区の運動会ができず、2年間何もしてないので、みんなで集まって、子どもからお年寄りまでできるものを考えました。社会福祉協議会からの助成金を活用し、終わってからソーキ汁を準備して、楽しく昼食を取りました。その後、反省会という形で子どもたちも一緒に話をしました。楽しい時間を過ごすことができました。また、新春マラソンの実施したかったのですが、今年までは中止しました。他の区と比べて、子どもが参加する行事は少なかったと思います。コロナが明ければ、以前のように子どもと計画を立てながら進めていきたいと思います。

【大濱会長】

これまで計画通りにできなかったと思いますが、各地域で工夫して取り組んできました。コロナ渦が明け始めて、再び立ち上がってきているな、復活してきたなというのを感じさせていただきました。

学校の取組では、カリキュラム一覧表を作成されていて、日常生活、家庭の中でも、地域でも往還しながら相互に子どもがも持っている力を出し合いながら進めていくことが、今後求まれてくるのかなと感じました。

他に御意見はありますか。

【玉城委員】

聞きたいことがあります。生活や家庭によっていろいろあると思いますが、百名小学校の児童に不登校は何名ぐらいいますか。私の地元伊江島、会社も伊江島で立ち上げたので本社は伊江島にあり、本部町と南城市に営業所を置いています。伊江島と行き来をして、教育委員会と連携してキャリア教育に関わっています。私も地元伊江島から育って、高校がないので15歳で島を出て、島立ち、島立ち教育という形で、小学生中学生までは教育方法を学んでいる中で、自分たちの頃は不登校の子がいなかったもので、伊江島だからいないだろうと思っていたところ、昨年伊江島に行く現状として不登校の子がいると聞き驚きました。自分の感覚では、田舎にはいないだろうと思っていましたがいたことに驚きました。百名小でも、今日の授業を見て、百名小も地域もいい、百名校区は自然も豊かで、歴史文化も含めていい素材がある地域だなと思っています。子どもたちものびのびと生活できていると思いますので、不登校はいないのかなとしたいのですが、いるのかなと気になっています。そのような子たちのケアというのは、今後、教育という部分では平等性をもっていけないかなと思っています。コミュニティ・スクールの委員として、私たちにできることがあれば協力したいなと思い、質問しました。

もう一つは、伊江島も同じですが少子化。南城市と同じように、学校の建て替えも終わりきれいな学校になっています。子どもたちが減ってきているので、教室が余ってきています。その教室を見た時に、何か活用できないかなと思っています。企業や社会人も多様な仕事の仕方変わっていますが、子どもたちも学校現場も同じなのかなと思っています。伊江村教育委員会との話の中で、日中授業に参加できない子どもたちが、夜、学校で学ばせてもいいのではという話をしています。最終的には、みんなと同じ時間に授業するのがゴールですが、ステップを踏んで、フェーズを持って、日常の生活に戻していくという流れを持った教育が、今後必要だと思います。ただ報道にもあるように、教員の働き方改革を考えると、夜までは難しいと思うので、コミュニティ・スクールの地域の皆さんで関わってケアできれば、さらに子どもたちの学習と生活に、社会に出るための一歩になるのかなと思います。逆に、外から来る子どもを増やす、関係人口を増やすことで、百名校区に生活する人が増えれば、人口の減少も止まるのではないかと思います。

【大濱会長】

魅力ある取組、新たな取組も必要になってくるのかなと思います。仲村委員、不登校の件いかがですか。

【仲村委員】

不登校は百名小にもいます。そのような子どもたちには、保護者や南城市教育委員会と連携を図りながら適応指導教室（ハート教室）通っている児童がいます。また、保護者の方針で学校に登校しない児童がいます。この児童とは、担任が電話連絡したり、面談したりしてつながりを持っています。全国的にコロナ渦で、登校しぶりや学校に行けなくなった子は多くなっていると思います。

話は変わりますが、知念小学校、知念中学校でワークショップが行われました。学生など多くの人に呼びかけて、実際できるかは考えないで、こんなことできたら楽しいよね、面白いよねという話を2回しました。教育指導課長がファシリテーターになり、まずは多くの人たちが学校に足を運ぶ、関心を持つという取組は、百名小でもあっても良いのではと思いました。そこからつながりを持って、できそうなことから進めていく方法も、コミュニティ・スクールの在り方として良いのではと思いました。

【大濱会長】

課題であるとか、こうなっていくといいなということ共有することが、コミュニティ・スクールのこれからの役目になるのかなと思いました。コロナ渦で、できなかったことが多かったと思います。そのような中、学校の方では、ビジョンをグランドデザインとして作成し、それに向けて先生方にしっかりと落とし込みながら努力されています。今日の学校公開日、皆さんの目に映った実績になっているのかなと非常に強く感じました。また、仲村委員からお話がありました知念の取組を参考にしながら、誰かが旗振り役になって、楽しく夢を語って、楽しいことをみんなで共有することからやりつつ、その中で課題も話していくことが大事だなと非常に強く感じました。

また、学校の情報を知ることが難しいのですが、学校でのこれからの取組について事務局の思いも話していただけますか。

【事務局】

子どもたちは学校だけの学びではなく、学校で学んだことを日常生活に生かしたり、日常生活で、してきたことが学びに繋がったりしています。そのような学びを、地域の方、保護者の方と共有することで、子どもたちと家庭内での会話が増え、地域の方々との会話が増えると思います。学校の学びは、子どもたちの生活に生きてくるとか、学校の話がコミュニケーションにつながることを、学校もさらに、子どもたちにアピールしていく。子どもたちができたことに自信を持って家庭や地域に帰り、そこで学んだことを授業に戻していくことを繰り返していくことで、家庭も、地域も、学校もお互いに納得できる教育や地域づくりができるのかなと思います。学校では、さらに自信を持つために、できたこと褒めるなど日々努力しています。

【大濱会長】

子どもたちが元気いっぱい、地域でも話したいというところが印象的でした。私たちは、子どもたちの元気な発言の聞き役になって、関わりを持っていくということ意識的に取り組む事を、今後求められてくる時代になるのかなと感じました。

それでは、以上を持ちまして本日の協議を終わらせていただきます。